

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所内に掲示している基本理念は開設時のままであるが、その人らしく支え、地域や家族との関わりを大切にサービスを提供を運営方針としている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念のもとに日常の介護の実践を行い、ケアカンファレンス等において日々の取り組みを検証、再確認している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>家族の方々には、事業所の方針や取り組みについて、定期的に発行している「すまいる便り」を通し、地域との交流やイベントへの参加など家の中に籠もらない生活の様子を伝えている。地域の方々へも利用者と一緒に外に出ることを通じ、理解を深められるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>利用者の方になるべく外出の機会を設け、近隣の方々に利用者の姿を見て頂くように務めている。行き交わず人には必ずあいさつするように努めている。また町内会行事への参加などで顔見知りも増え、気軽に話かけてくださるなど交流している。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の行事(花見、親睦会など)には極力利用者とともに参加している。また数名が地域の老人クラブに参加させて頂いている。</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>冬には周辺の除雪等を行っている。「他に何かできることはないか」と運営推進会議等で地域への貢献について話したことがある。例えば利用者の散歩を利用して、小学生の下校時の通学路の見守りなど。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>外部評価の意義については理解しているものの、日々の関わり等に追われ外部評価自体に負担を感じる。1年の振り返りとして、自己評価を行い、可能なものについては改善に務めている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>利用者の家族や地域の方々、行政の方などとの意見交換は、外部からの率直な意見や要望を聞くよい機会ととらえている。できるかぎり皆さん中らの意見や要望を取り入れまた活かした活動をするよう努めている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>日常的に必要なに応じて行政機関と連携を図っている。また、市内にある全グループホームで作るネットワークの会を通じても行政機関との連携を図っている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>研修等に参加している。利用者の必要に応じて家族や関係者と話し合っている。以前に結局は保留となったが、支援の手伝いをしたこともある。また今現在活用の検討をしている利用者がいる。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>研修等に参加している。職員以外は特に学ぶ機会は設けていないが、来訪者にも眼にとまるよう事業所内に虐待防止のポスターを掲示し、意識している。日常の業務の中で検証し、注意を払っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>契約時には十分契約書の内容を確認していただき、疑問や不明な点には、その都度わかりやすく説明し納得して頂いている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や不満については概ね職員がじっくり聞いて、解消に向けた取組みを行っているが、場合によっては、本人の求めに応じて、以前の担当ケアマネジャーや市職員、病院の医師などに協力をお願いし、内容を把握し本人との関係づくりに役立てている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	「すまいる便り」を作成し、定期的に生活や健康情報をご家族に報告している。金銭管理については、できる限り毎月行っていきたいが、現在は個々にあわせた報告を行っている。職員の異動等については、運営推進会議の報告書に記載し報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時には、できる限り家族と話し、意見等を聞くように努め、意見等に対しては真摯に受けとめ、その都度改善等に努めている。また事業所内には外部相談窓口を掲示している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常の業務の中や会議の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて、可能な限り利用者や家族のニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	特別な事情がないかぎり、ユニット間での異動等はおこなわない方針で行っている。但し同一建物の中ということで、できる限り全利用者のことを把握できるようユニット間の交流を行い、全職員が顔なじみの関係を作れるよう努め、特別な事情で異動を余儀なくされた場合でも、お互いに影響が少ない状況であるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時より、入居を当然のものとしてとらえず、サービス利用者として適当であるかどうか判断したうえで、本人にとって必要なサービスの見極め、本人と家族と話し合い、適切なサービス利用に繋げている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学あるいは必要に応じて短期入所など体験を勧めている。これまでほとんど断られても断ることはなかったが、雰囲気やホームまたは職員との相性をみることができ、本人や家族、また職員も選択する材料となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ADL的に自立した利用者が多く、利用者同士関係ができ、交流を持ちながらマイペースな生活をされている。その中で家事業務では、日常的に一緒に行っていくことの意義をわかりつつも、ついつい職員だけで行ってしあうこともあるが、日課として利用者が関わる部分や忙しい時に利用者を頼ったり、それなりに支えあう関係を築けている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者を挟んで、職員と家族が話し合い、本人の理解に努めている。良い方向性について考え、協力できるよう努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の状態に支障のない範囲で、外出や外泊を積極的に勧め、家族との時間を持つように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会についても特に制限なく、馴染みの人との交流ができるよう支援している。時々定期的に来てくれる友人などがいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	聞き違い、思い違いなどでけんかしたり、笑いながら一緒に家事をしたり、職員より早く他の利用者のイスを支えたり、見守ってくれたり、時には悪口や陰口をいうこともあるが、そんな利用者同士も時には一緒に作業したりと孤立することなく、お互いに関わりを持って生活している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後は、ほとんどの場合交流が途絶えるが、門戸は開放しており、相談等必要に応じて対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向については、日常のかかわりの中で把握について務めている。意思表示が困難な場合についても本人の言動や行動、表情からくみ取る努力をしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や暮らしの様子など把握に努めているものの、なかか家族と会う機会が設けられず、十分に把握できているとは言えない。		家族と会う機会を積極的に設定したり、直接会う機会を持つことができない場合は、電話や文書によってアセスメントを行っていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者の一日の生活状況など、記録用紙にて時系列で把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	現状、本人、家族に生活上の意向の確認程度にとどまり、介護計画の承認を頂くことしかできておらず、介護計画の作成に利用者主体で関わっているとは言えず、今後の課題と言える。		本人、家族が介護計画の作成に主体的に参加できるよう検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は、一定期間ごとに見直している。また入院であるとか状態に大きく変化があった場合には、機関に関わらず見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は自由記述で詳細に記入できるようになっている。アセスメントツールのひとつとして、介護計画作成に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	できる範囲で、本人や家族の要望に対応している。希望や訴えに応じての病院などの対応。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の意向や必要性があれば、その実現に務めている。その中で必要に応じて地域資源の活用を検討し協力を要請している。ボランティアの受け入れなど。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	以前併設するデイサービスの利用を検討したことがある。介護保険制度上、グループホームは他のサービス利用する場合、事業所負担が発生することから、行政に相談したところ、利用料を発生させない利用については、不公平が生じる、交流として行事的なものの見学についてはよいとの見解から、定期的な利用については断念した。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターには、運営推進会議等において協働している。個別のケアマネジメントにおいては協働する機会がない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前からかかりつけ医が決まっていることが多く、継続して受診している。また希望がある時は、沿えるよう医療機関との連携を図っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医や精神内科の医師との関係を築き、日常の変化や生活状況など家族と相談のうえで必要に応じて上申し、生活を継続するためのアドバイス、治療など受けられるよう連携した支援をしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤の看護師がいるため、小さな変化や気になることなど随時報告し、改善策をその場で話し合い、悪化防止や早期回復へを協力し、必要に応じて医療の活用の支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中にも面会に行き、病院関係者から情報をもらい、家族と一緒に医師から症状の説明や退院後の注意事項等も相談しながら、早期退院に向けての協力連携を図っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人には説明や理解が難しい事も多いため、家族と早い段階より話し合い方向性を決めておくことも多く、話し合ったことは医師にも伝え、もしもの時やホームでの生活に限界が来たときにも、慌てることなく医療との連携が図られている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医療機関と連携しながら、ホームでの生活が限界となるまで、できる限りの支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p> <p>本人がグループホームから退居を検討する場合は、本人や家族と十分協議を行い、住み替え先やケアマネジャーに情報を提供するなどして、スムーズに移行できるように努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p> <p>基本的には、一人ひとりの入居者の尊厳を守るよう努めている。周囲への配慮もやっている。ただしコミュニケーション技法として、悪影響を及ぼさない中で、くだけた言葉で話しかけたりすることもある。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> <p>本人の認知の状態を十分把握したうえで、本人が自分の希望を表現できるような問いかけをしたり、選択肢を提供したりして、自己決定できるよう支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> <p>やや業務優先の流れを優先しがちな面がある。</p>		一人ひとりの行動の特性について職員が理解に務め、関わりを話し合っていく。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> <p>以前からの行きつけの理美容院には、本人の希望に応じて随時行っている。外出等が困難な方々には、定期的にホーム内での訪問理美容や車両での移動理美容室で美容院等に行った雰囲気味わってもらえるようにいろいろと工夫しながら、おしゃれの支援を行なっている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> <p>メニュー作成時、食べたい物、好物を聞き、取り入れるように心がけている。また皆と一緒に作る作業のできるメニューを取り入れ、片づけだけでなく、実際の調理にも参加しているよう工夫している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	事業所内禁煙のため、それ以外の嗜好品に関しては、ドクターストップがない限り、本人の希望に沿えるよう取り計らっている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導等適時行っている。状態に応じてパットやオムツを使用する場合でも、最小限になるよう心がけている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望を聞きながら、毎日行っている。その日の気分や体調等で週1～2回の入浴になっている。一人ひとりの希望や入りたい時間など考慮しながら声がけを行い、気持ち良く入浴して頂けるように努めている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠れない時には話をしたり、ホットミルクなどを提供したり工夫している。無理に寝てもらうことを考えた関わりをせず、気持ち良く「おやすみなさい」と言える環境作りに努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活やニーズに合わせ支援している。出先までの送迎や気晴らしできる様、声がけし、一緒に買い物や外出したりしている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの能力に合わせ、家族と協議した関わりを行っている。必要に応じてお金を所持したり、使用できるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望や声がけで、散歩や買い物など外出支援をしている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	天気も考慮し、季節ごとにイチゴ狩り、花見など普段行けないところに行って、楽しんでいる。家族と温泉旅行に出かけたり、外食に出ることもある。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望に応じて、電話をかけたりなどその都度対応している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関はいつでも開いている。面会時間の制限も特にない。気兼ねなく来訪し、居心地よく過ごして頂けるような対応を心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	概ね身体拘束について、理解されている、そのうえで研修等に参加し、理解を深めている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上、一般家庭同様施錠を行っているが、日中は施錠はしていない。玄関内に人感センサーがついており、人の出入り時にチャイムがなる。見守りを行いながら飛び出しや転倒などないよう気配りを行い、自由に安全に戸外に出られるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	一人ひとりのプライバシーに配慮しつつ、昼夜通しての見守り又は適宜巡回を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	衛生材料など危険と思われる物品については、見に触れないように配慮している。またひとり一人の状態に応じて、危険物となり得るものを把握し、事務所で管理して、使用時に本人に渡し、使用後は戻してもらったことを確認している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひとり一人の状態や行動性からリスクを把握し、事故防止に努めている。緊急時の対応等マニュアルを作成している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急病や事故発生時の対応について、日頃からどう対応するか確認している。普通救命講習等を受けているが、定期的な訓練はしていない。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練など行っている。その際地域にチラシを配布し、協力を求めている。その他にも市内の全グループホームでつくるネットワークの会として合同消防訓練を行い、職員の訓練に協働し務めている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ひとり一人の状態についてはケアプラン説明時あるいは日常の面会時などに家族に説明しており、その中で起こりえるリスクと防止策など話し合いを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の体調の変化の早期発見に努めている。発見時は速やかに看護師及び管理者の報告し、状態にあった対応をしている。情報については全員で共有している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬は名前と飲むものかの確認して、食前、食後に手渡している。飲み忘れのないように、飲んだ袋を回収し確認後、記録に記載している。看護師が誤薬のないように管理し、処方の変更になる都度、職員に用法、用量、副作用等説明し、適時確認を行っている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	心身の状態等に便秘など大きく関係深いことを理解し、適切に水分をとってもらえるように働きかけている。バランスのとれた食事の提供と水分、1日1,500ccを目標に取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きやうがい、入れ歯洗浄など口腔内衛生についても、一人ひとりの習慣に配慮しつつ、無理のかからない範囲で働きかけている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ひとり一人の状態に合わせた食事の提供や水分摂取の働きかけを行っている。食事がなかなか摂れない場合は、医師と相談し、エンシュアなどの補助食を処方してもらったり、食間に軽食の提供を行う等等支援も行っている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対策のマニュアルを作成し、掃除や汚物処理の取り決めを実行している。外から帰っていた時には手洗いうがいを励行している。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	職員全員が食中毒のリスクを十分理解し、調理器具の衛生管理はもとより、新鮮な食材の使用と管理を行っている。野菜保存庫、冷蔵・冷凍庫内の定期的な清掃消毒と食品の賞味期限等の点検、また1週間分の検食(毎食)を冷凍保存している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	畑や花壇も作っており、三季折々の花には定評がある。ゆるやかな階段とスロープは登りやすく、アプローチも広く、夏期等にはパラソルやテーブル、をベンチ置き、利用者や近隣の人の憩いの場としている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	窓やブラインドの調整でひかりや音にも配慮している。匂いには消臭剤は極力無臭が微香の物を使い、換気を適時行いながら、空気のとどみをなくするように努めている。四季に合った絵や手作り作品、観葉植物なども置いている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お互いに居室を行き来して、おしゃべりを楽しんでいる。廊下には椅子も置かれ、一休みしたり、外を眺めたりしている。ソファや食卓、自分の過ごしやすい場所で過ごしている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物を持ち込んでほしいと説明するが、持ってくる方は少ない。居心地良く過ごせるよう配慮しつつ、一緒に工夫している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	状況に応じて、適時温度、湿度の調整を行っている。体感温度の個人差もあり、調整に苦慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物は手すりを設置し、床も段差のないバリアフリー構造になっている。安全面に配慮しており、個々の状態に応じて車椅子や歩行器を使用している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の分かる力を把握し、それに合わせた働きかけを行い、環境面でも表示を工夫したりして間違いや混乱を避ける工夫を行っている。失敗しても、さりげなく職員がフォローすることで対応している。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏には庭で焼き肉、ひなたぼっこしながら水分をとったり、軽くおにぎりを食べたりしている。庭の畑には利用者の希望の物を植え、収穫を楽しんでいる。花畑の草取りなども外に出た時の活動として行い、綺麗に彩られる花畑を楽しみ、近隣の方々との交流の材料としている。		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 理念として「自由」「安全」「穏やかに」を実践しています。私たちのできる限りの心のこもったお手伝いや気配りで信頼関係を築き、「すまいる」での生活をよりよいものにしていただきたいという思いで日々取り組んでいます。